

その30 小倉

(平成11年7月15日号—第202号)

今回紹介する小倉[おぐら]地区は、京阪電車牧野駅と御殿山駅との間の東側に位置しています。

弘仁[こうにん]5年(814)嵯峨天皇が交野へ行幸されたときに、佐為[さい]・百濟[くだら]・粟倉[あわくら]の3寺に綿を施されたという記録が『類聚国史』[るいじゅうこくし]にあります。粟倉寺の所在地は明らかではありませんが、粟倉郷に当たる現在の小倉・渚地区にあったと考えられます。ここから「小倉」の地名は、粟倉(アワクラ)が小倉(オグラ)になまったという説も生まれています。

また、小倉の鎮守社である粟倉神社は、元和2年(1616)新たに八幡大神を勧請(神仏の分霊を招き祀る)した後、明治42年に片埜神社に合祀されました。しかし、昭和25年旧地(小倉)に戻され、「粟倉」の地名を今に伝えています。

ところで、小倉の古い集落から少し東にはずれた所に、有名な古墳があります。一般には、牧野車塚古墳の名で知られていますが、この土地の名前をとって小倉車塚古墳とも呼ばれています。この古墳は、市内に残る前方後円墳では、禁野車塚古墳と並んで屈指の規模を誇っており、大正11年(1922)には国の史跡に指定されています。大き



51・52 牧野車塚古墳(左)、史跡標柱(右)
(車塚1丁目)

さは、全長107.5メートル、後円部の直径54.5メートル、前方部の幅44メートルで前方部を東に向けています。また、周囲に幅約10メートルの空濠[からほり]をめぐるせ、西側から南側にかけては、今でも外提[がいてい]をとどめています。もっとも、主体部の構造や副葬品が明らかではないため、正確な築造年代はわかっていません。しかし、墳丘の形状から、古墳時代中期前半(5世紀前半)と推定されています^{*1}。この古墳は、築造された当時のものとしては、外提を含めると北河内最大規模の前方後円墳であり、旧交野郡一帯の統合を達成した首長の墓と考えられています。牧野車塚古墳の南西方面には、赤塚・権現塚・子供塚・ショーガ塚などの古墳が分布していました。これらの墳丘はすべて消失しましたが、赤塚古墳出土の副葬品の記録から、牧野車塚古墳を盟主墳とする古墳群であったと思われます。

現在、牧野車塚古墳は、史跡公園として整備されています。一度この墳丘をめぐる、古代のロマンに思いをはせるのも一興ではないでしょうか。

^{*1} 車塚公園整備に先立つ発掘調査で、古墳時代前期後半(4世紀後半)に遡ることが判明した。